

## (2) 平成 23 年度地区別研修会報告 ー神戸・淡路地区ー ICTエデュケーショナルフォーラム

島田 融

神戸市立神港高等学校・教諭

### 【要約】

平成 22 年度より兵庫県高等学校教育研究会情報部会と神戸市立高等学校教育研究会情報部会との連携事業が始まった。本年度は、両情報部会の連携事業の一環として地区別研修会「神戸・淡路地区別研修会」が行われた。最近情報技術分野で新しい動きが進行しており、国内の教育環境に大きな影響を与えている。高校情報科教育では、その地域性・独自性・先進性について今後重要な学習指導コンセプトとなり、新たな視点で実践的に取り組むことが必要であると予想されることから、下記のような研修会を実施した。

### 【キーワード】

情報教育の地域性・独自性・先進性、地域連携交流、医療・教育研究分野の情報システム、先端施設見学

#### 1 . 開催日時・参加人数

平成 23 年 8 月 2 日 (火) 14 : 00 ~ 17 : 00  
講演及び施設案内関係者を除く 68 名

#### 2 . 開催日程・場所

##### ① 14 : 00 ~ 15 : 50 講演 1

場所：臨床研究情報センター (TR I) 1 階  
演題：「県立大学大学院研究科の紹介等」  
講師：佐藤哲也 (兵庫県立大学大学院シミュレーション研究科長)

##### ② 15 : 00 ~ 15 : 15 施設見学

場所：神戸キメックセンタービル 10 階  
案内：医療産業都市の紹介  
神戸市企画調整局医療産業都市推進  
本部 推進課 若松謙一 (課長)  
調査課 赤塚忠彦 (主査)

##### ③ 15 : 20 ~ 16 : 10 講演

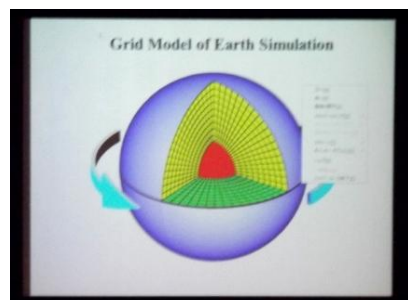
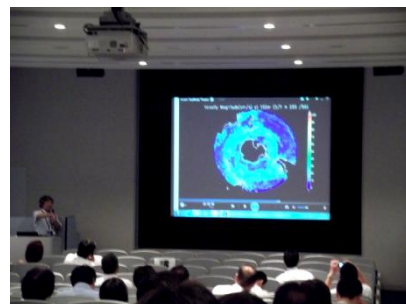
場所：臨床研究情報センター (TR I) 1 階  
演題：「個別化 ICT による医療・教育デザイン：  
見える教育から触れる教育へ」  
講師：杉本真樹 (神戸大学大学院医学研究科  
特命講師)

##### ④ 16 : 25 ~ 17 : 00 施設見学

場所：理研計算科学研究機構  
次世代スパコン「京コンピュータ」

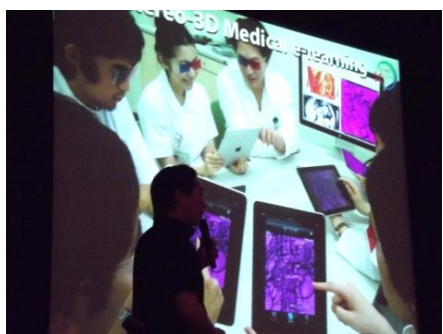
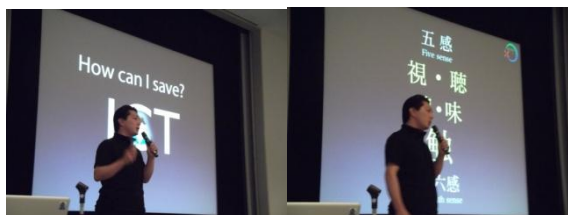
#### 3. 講演概要 (I)

シミュレーションサイエンスの世界的な第一人者で神戸出身でもある、兵庫県立大学大学院シミュレーション学研究科長をしておられる佐藤哲也教授は、コンピューターシミュレーション学の提唱とその内容説明、日本におけるスーパーコンピューターとコンピューターシミュレーションの略史、地球シミュレーターセンターで行われた研究とその成果内容、そして、コンピューターシミュレーションの未来、兵庫県立大学大学院における今後の取り組み等について講演を行われました。



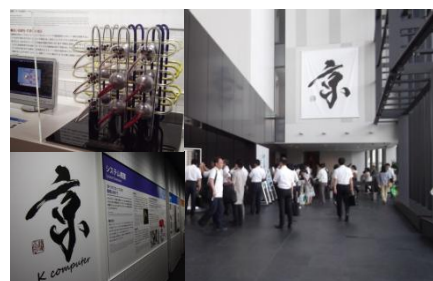
#### 4. 講演概要（Ⅱ）

医用画像システムの世界的な第一人者で、神戸大学大学院医学研究科特命講師をしておられる杉本真樹医師は、「Tailor-made medicine」「How can I save? ICT」「五感(視・聴・嗅・味・触覚)+第六感」というコンセプトを提示し、最近の外科医療における情報システムや産学官連携状況や大学医学部での研修医教育状況などを、オープンソース医療画像解析アプリ OsiriX の開発・利用や、臨床現場での携帯端末「iPhone/iPad」の利用、そして「“医領”解放構想:医療 3.0」や「遠隔医療システム」など、医療 ICT（情報通信技術）の現状を紹介しながら解説されました。また、医師と患者とのコミュニケーション方法として、視覚的な三次元医療画像情報伝達のみならず、その立体造形化物による触覚的コミュニケーションの事例を紹介されました。そして、プレゼンテーション技術の方法や、これからの医療の在り方を解説されました。



#### 5. 施設見学概要

最初の施設見学は、講演会会場の南側に隣接する「神戸キメックセンタービル 10階展望ロビー」において、この度の研修会にご協力いただきました神戸市企画調整局医療産業都市推進本部より、医療産業都市構想の区域展望視察とその概要説明がおこなわれました。次に、神戸市中央区のポートアイランド第2期区域にある「理研計算科学研究機構」に徒歩で移動し、2012年秋の共用開始を目指して整備が進められている世界一高速のスーパーコンピュータ「京(けい)」がある計算機棟と研究棟の概要説明を当職員から聞き、最後に一般公開後いち早く窓越しにその本体を視察しました。



#### 6. 研修会を終えて

グローバル社会が急速に進展し高校教育の改革・イノベーションが期待される中、これからの高校情報科教育は、その先導的役割が求められている位置にあると考えられます。それには各高校周辺の様々な地域資源を最大限に活用した多様な地域連携システムを基盤に、独自性のある学習指導体制を構築していかなければならないであろうし、また一方で、医学・生命科学・美学の知見をもとにした情報モラル学習・情報倫理教育の展開が必要だと考えられます。今回の研修会が、今後その機会・一助になれば幸いです。